

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2017年12月9日～2017年12月15日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は下落し、カナダ5年国債利回りはほぼ横ばいとなりました。

先週は、米国でFOMC(米国連邦公開市場委員会)が開催され、利上げが実施されました。しかし、発表された今後の政策金利見通しが前回から据え置きとなったことで、市場の追加利上げ期待が高まる結果とはならず、米国金利が低下し、それに連れてカナダの金利低下圧力やカナダ・ドル円の下落圧力が高まりました。

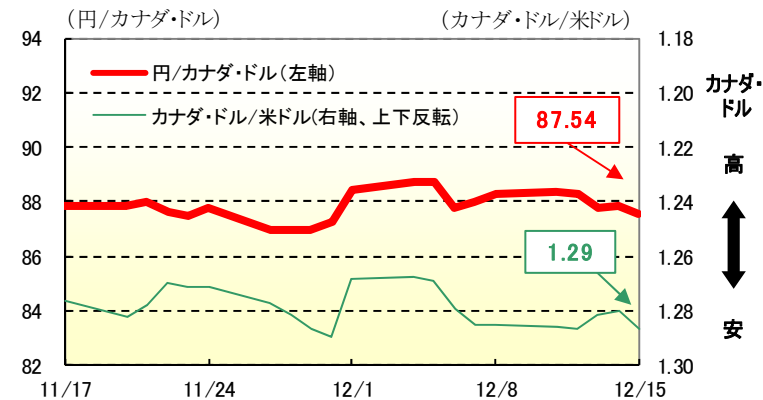
その後は、カナダ銀行のポロズ総裁が講演を行い、金融刺激策の必要性はいずれ低下すると述べるなど市場の追加利上げ期待を高める内容だったことが、金利やカナダ・ドル円の上昇圧力となりました。

【2】今週の見通し

今週、カナダでは、CPI(消費者物価指数)、小売売上高、GDP(国内総生産)が発表されます。これらの指標のほとんどは前月から伸びが加速することが見込まれています。カナダ経済の堅調さが確認されれば、カナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力になると考えられます。

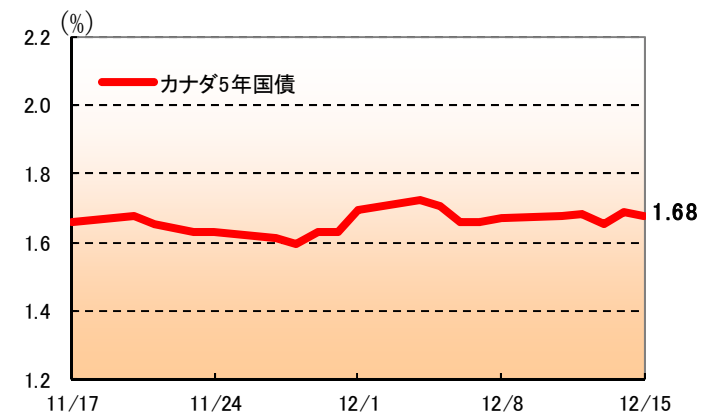
また、米国の予算案や税制改革法案の審議の行方にも市場の注目が集まっています。これらが進展した場合には、市場のリスク選好的な姿勢が高まり、カナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力になると考えられます。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2017年11月17日～2017年12月15日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【カナダ 金利推移】 (2017年11月17日～2017年12月15日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>